

大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」原作者 田淵 久美子さん

長浜市長 & 藤井 勇治



たぶち くみこ
田淵 久美子さん (脚本家)

1959年島根県生まれ。島根県益田市出身。
1985年脚本家としてデビュー。NHK朝の連続
テレビ小説「さくら」では橋田須壽賀子賞を受
賞。2008年の大河ドラマ「篤姫」は平均視聴率
24.5%を記録する空前の大ヒットとなりました。
今年9日から放送が始まる大河ドラマ「江～姫
たちの戦国～」を執筆。同タイトルの原作(上・
下巻)が刊行されています。



ふじい ゆうじ
藤井 勇治 (長浜市長)

新春市長対談

今年は、長浜ゆかりの戦国大名浅井長政の三女「江」を主人公とした大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」が放映されます。

今回は、その原作を書かれた田淵久美子さんに、「江」のふるさと、長浜の魅力や原作のエピソードをお聞きしながら、1月15日から開催される「江・浅井三姉妹博覧会」の話題などを話し合っていました。

「江」のふるさと 長浜

藤井市長：あけましておめでとうござい
ます。「江」のふるさと、長浜へようこ
そお越しくございました。長浜へは初め
てですか？魅力が満載の長浜ですが…。
田淵さん：大河ドラマ「江～姫たちの戦
国～」の原作を書く際に、長浜の街を何
度か訪れています。琵琶湖はもちろん、
賤ヶ岳や小谷城址などにも足を運びまし
た。知れば知るほど湖北という地は、戦
国という舞台の中心地ですね。
藤井市長：「江」のふるさと、長浜を訪
れた印象はいかがですか？

私たち長浜にとって今年の大河ドラマに
浅井三姉妹の生き様が描かれることは本
当にラッキーでした。大河ドラマの舞台
になりますと、全国から大勢の人が口ケ
地を訪れてくれるからです。わがふるさ
と「長浜」をPRする絶好のチャンスだ
からです。そこで、今、長浜ではそれと
タイアップしまして、浅井三姉妹にちな
んだ博覧会を始めようとしています。
この博覧会は、3つのパビリオンを軸
に、市内全体を会場として、1月15日か
ら約11か月間開催するのですが市民のポ
ランテアを中心に、連日連夜、知恵を
しぼっていただいています、いよいよ

スタートしようというところですよ。
田淵さん：すごい動きの早さですね。開
幕が待ち遠しいです。多くの市民の方々
が中心に開催されることはたいへん頼も
しいですね。
藤井市長：長浜では、平成8年の大河ド
ラマ「秀吉」や平成18年の「功名が辻」
の時にもたくさん観光客でにぎわいま
した。また、スタッフとして多くの市民
ボランティアが活躍されました。今回の
博覧会もひとつの大きな祭りであるとい
うことと、もうひとつは、各地域の特性
がいろいろありますが、この博覧会を通
じて、一体感のある長浜を作っていく、

田淵さん：やはり琵琶湖ですよ。琵琶
湖の風景というのがものすごく強烈でし
た。それは、私が島根県の生まれで、宍
道湖という湖を見て育ったせいとか、琵琶
湖に刺激されるものがありました。そし
て、長浜は何よりも江とその姉たち、浅
井三姉妹が生まれた場所ですよ。生ま
れた場所というのは、その人の人生のそ
の後を大きく決める場所だと私は思っ
ています。私は彼女たちが生まれた小谷に
行き、そこから見える琵琶湖や竹生島の
景色が姫たちの「ふるさとの風景」だと
感じました。

藤井市長：江のふるさと長浜は、世界に
も誇れる歴史的財産の宝庫です。戦国の
舞台としての小谷城址をはじめ、長浜城、
姉川古戦場、賤ヶ岳、北國街道などの
「歴史的財産」があり、琵琶湖や余呉湖、
伊吹山系の緑豊かな山々などの「自然財
産」や大通寺などの寺社仏閣に代表され
る「文化的財産」もきらほしのごとく点
在しています。これらを巧みにつなぎ合
せ、経済効果や地域づくりにつながるよ
うな観光振興を進め、新長浜のブランド
力の向上を市民の皆さんと共に図って
いきたいと思っています。

博覧会で一体感のある まちづくり

藤井市長：昨年1月1日に合併してから
新しいまちづくりが始まったのですが、

次のまちづくり・まちおこしのきつかけ
となるよう、ぜひ成功させたいと考えて
います。

日本の母・「江」

藤井市長：戦国時代を生き抜いた江とは
どのような人物だったのでしょうか。
田淵さん：江は、三度の落城で父母を喪
い、三度の政略結婚を強いられ、後に
姉・茶々(のちの淀)とも、敵味方にな
って争わねばならない、実に、「戦国的」
ともいえる生き方をした女性です。その
一方で、将軍家に自分の血を残すことは